

種もみが「かんじき」をはく

戦争中、私はジャワのボゴルの農事試験場を接收するため、陸軍技師として同地に乗り込んだ。現地に行ってみると、ジャワの人達はイネの種もみをまくのに、穂についたままで、苗代の土の表面にならべて水を入れる。たとえ、穂の着粒がまばらであっても、これでは密に苗が生え過ぎて、苗はヒヨロヒヨロになりやすい。

私の片腕として一しょにジャワへ行って貰った岡田富信君が、これではいけないから、もみをばらまきして見ようと、やって見たところが、いつまでたっても芽が出て来ない。種もみを指でほじって見ると、皆んな腐ってしまっている。この話を同僚の弘法健三君に話したところ、彼は早速に苗代にひとさし指を突込んで、その土を掻くようにすくいにとって、その指の根元の方、つまり土の表面の方1mmぐらいが真赤なさび色に、その先の方、つまり土の深い部分が青黒い色になっているのを示して、熱帯は温度が高いので、土の表面は酸化が著しく進んで酸化鉄の色となるのに反して、深い部分は微生物の繁殖が盛んで酸素を消費してしまうので、著しく還元の状態で鉄色となっており、種もみがこの還元層に落ち込むと酸素不足となって発芽出来なくなってしまうのだらうと言う意見を述べた。

そこで、原地人が穂のまま種まきをする意味をたちまちに解くことが出来た。つまり、種もみに「かんじき」をはかして、還元層へ落ち込まないようにしているのである。その後、日本に帰って水稻の直播の必要性を感じて色々の試みをしたが、乾田直播では地面が均平でなく、凹んだ所があって水がたまると、やはり種もみは腐ってしまう。

近年、このような種子の酸素不足による発芽不良をなくす目的で、まかれた種に酸素を供給するよう

目 次

(第7巻第3号)

水田多年生雑草の除草剤による防除

I, はしがき	2
II, 主要多年生雑草の防除法と除草剤適用上の問題点	2
III, 一年生・多年生同時防除用除草剤	9
IV, あとがき	10

農林省農事試験場作物部

草 薙 得 一

早生温州みかんの薬剤摘果

鹿児島県加治木農業改良普及所

迫 田 和 好

昭和48年度新供試除草剤・生育調節剤一覧表

<第1表> 昭和48年度対象別供試薬剤一覧表	15
<第2表> 昭和48年度新供試薬剤成分一覧表	16

新除草・調節剤

・ブタクロール除草剤	27
・クロメトキシニル除草剤	27

植調協会だより

28

な薬剤が開発されて来た。このような新しい薬を持って熱帯に行き、再び種もみのバラまきをやりたいような気がする。

(日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党)